

進路環境DATA2017

進路ガイダンスの話題に!

そのままコピーして
進路だよりへ!

—「今」が見えてくる最新TOPICS—

進学^の動向

● 高校生のオープンキャンパス参加校数

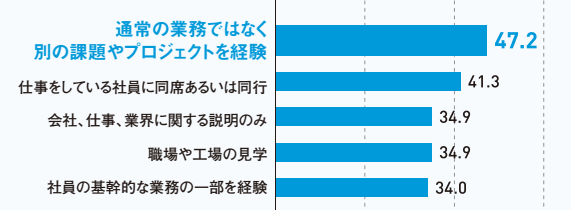


チェックシートも活用し、複数校の比較検討を

大学進学者への調査によると、高校3年間のオープンキャンパス参加率は94.2%。参加校数は1人平均3.8校だ。「学校の隠れた魅力に気づく」「学生の雰囲気を肌で感じる」など、参加の効果は大きい。第1志望校はもちろん、併願校も複数参加し、チェックシートなどで記録を残そう。

リクルート進学総研「進学センサス2016」

● 大学生・大学院生のインターンシップの内容

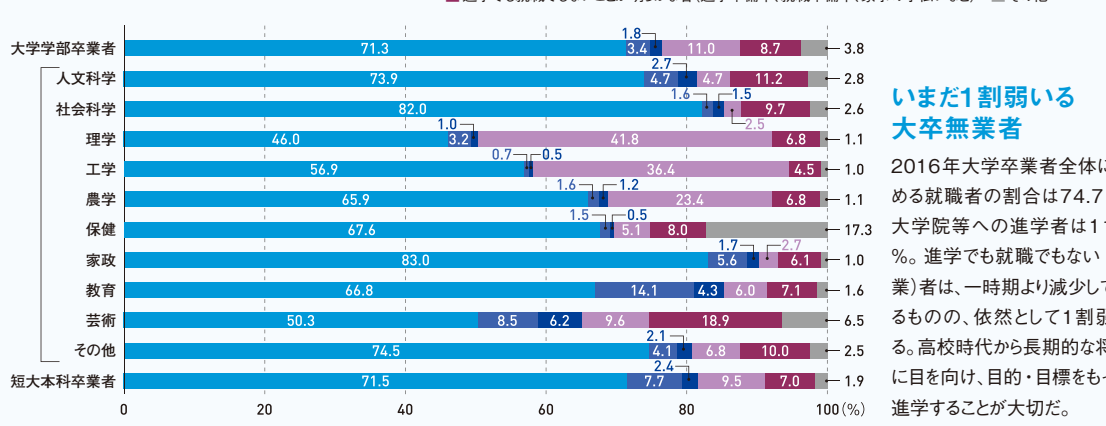


約半数が課題解決型の内容を経験

2017年卒の大学生・大学院生のインターンシップ参加率は43.7%で、4年前の2倍以上に増加した。参加者の半数近くは新規事業立案や売上アップ施策提案などの「通常の業務ではなく別の課題やプロジェクト」に参加。仕事内容の具体的な確認や自分のスキルの見極めなどにつながる。

リクルートキャリア「就職からい研究所」就職白書2017
*インターンシップ参加者における割合・複数回答/上位5項目のみ掲載

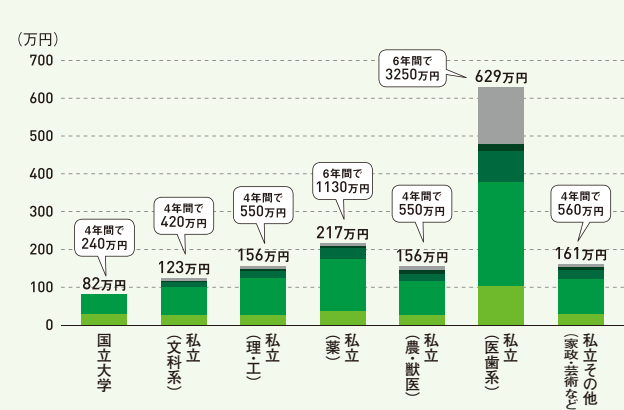
● 大学・短大卒業者の進路状況



文部科学省「学校基本調査」(2016年3月卒業者について) ※「進学者」とは、大学院院科、大学学部、短期大学本科、大学・短期大学の専攻科、別科へ入学した者(就職し進学した者を含む)
*「正規の職員等でない者」とは、専任の期間が1年以上の期間の定めの者である者で、かつ「通常の所定労働時間」40〜30時間の者
*グラフでは「臨床研修医(予定者を含む)」「専修学校・外国の学校等入学者」「不詳・死亡の者」を「その他」として集計

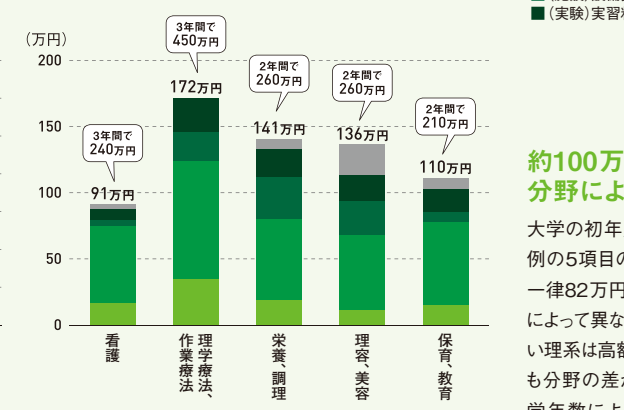
進学費用^の動向

● 大学の初年度納付金



文部科学省「平成26年度私立大学入学者に係る初年度学納付金平均額(定員1人当たり)」(概算) ※国立大学は標準額 ※1万円未満は四捨五入 ※グラフの数字は卒業までにかかる総額の目安

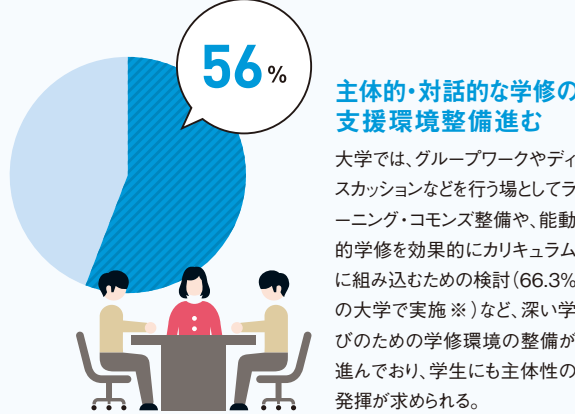
● 専門学校の初年度納付金



東京都専修学校各種学校協会「平成28年度 学生・生徒納付金調査」専門課程(専門学校)平均(年間別)より抜粋 ※1万円未満を四捨五入 ※グラフの数字は卒業までにかかる総額の目安

注目!

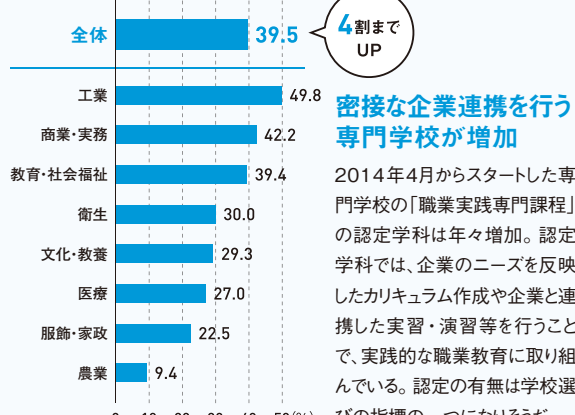
● 大学のラーニング・コモンズ整備・活用状況



文部科学省「大学における教育内容等の改革状況について」(平成26年度) ※本文の数値も同調査結果より

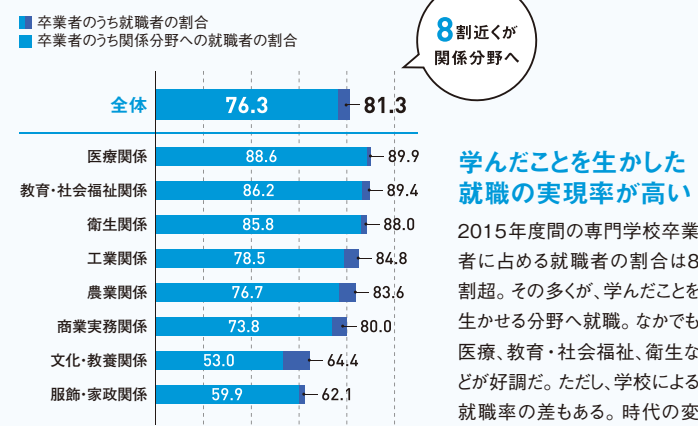
注目!

● 「職業実践専門課程」の認定状況



文部科学省「職業実践専門課程」の認定状況(平成29年2月24日現在) ※学科数の割合

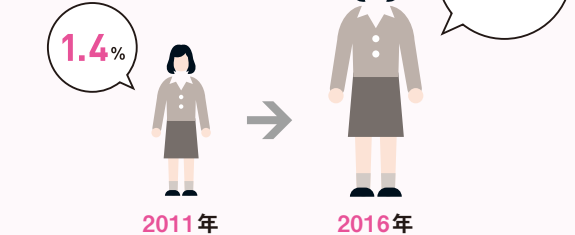
● 専門学校卒業者の就職状況



文部科学省「学校基本調査」(2015年度)

注目!

● 女性役員数の推移

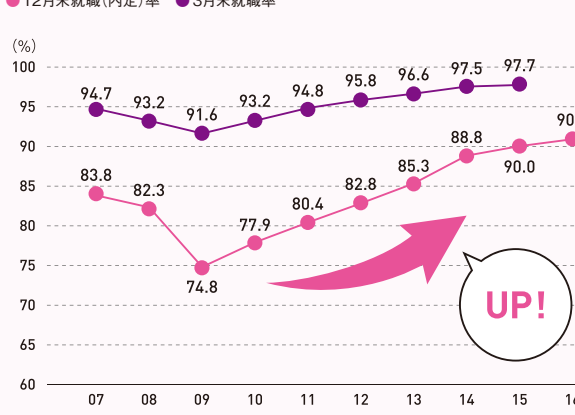


さまざまな分野で女性の活躍を推進

女性の活躍推進は日本の持続的成長のための最重要課題の一つ。男女共同参画に向けた待遇の改善、社会制度の見直しなどが進められている。上場企業役員数の女性比率は5年前の2倍強だが、国はさらに2020年度10%を目標に増加を目指す。こうした環境変化をふまえた就業意識をもつことが必要。

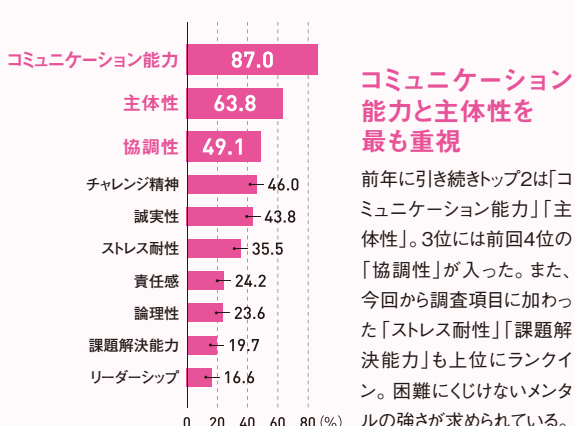
東洋経済新報社「役員四季報」(2017年版) ※調査時点は原則として毎年7月31日現在。調査対象は全上場企業。ジャスコの上場会社を含む。「役員」は、取締役、監査役、指名委員会等設置会社の代表取締役および執行役。

● 高卒者の就職内定状況



文部科学省「新規高等学校卒業(予定)者の就職(内定)状況」(2016年12月末現在) ※2010年度卒業者の11年3月末現在の就職状況については、東日本大震災の影響により調査が困難とする岩手県5校および福島県5校は、調査が除外

● 大卒採用で企業が重視した点



日本経団連体連会「2016年度 新卒採用に関するアンケート調査結果」 ※20項目から5つを選択(上位10項目を抜粋)

● 一人暮らしの学生の年間生活費

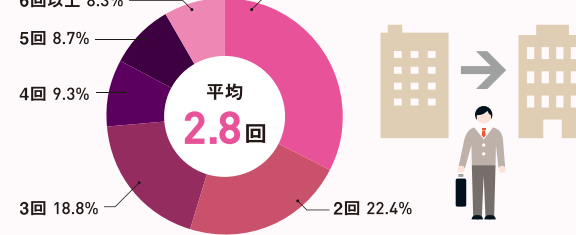


生活費は学費と同程度の額が必要

一人暮らしの大学生の生活費(食費・住居・光熱費・娯楽・好費など)は年間約104万円、ひと月あたり8~9万円。そのうち大きな割合を占める住居費は、地域によって大きく異なる。一人暮らしが必要な場合、早めに志望校周辺の賃貸相場を確認し、資金の準備を進めることが大切だ。

日本学生支援機構「平成26年度学生生活調査結果」(専門学校)平均(年間別)より抜粋 ※大規模学部・下部、アパート、その他の区分

● 退職の経験

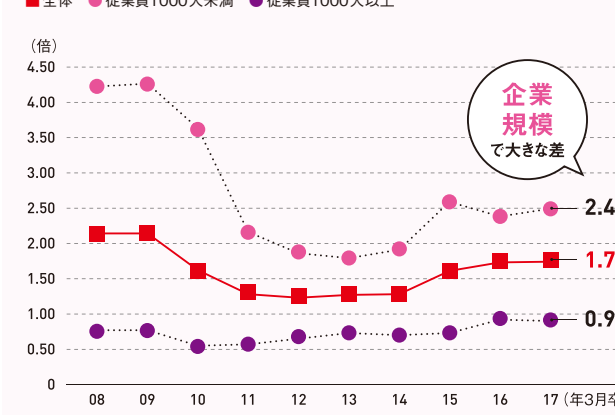


転職も想定したキャリアプランが必要な時代に

今や働く人の約6割が退職経験者で、その平均退職回数は2.8回。転職はキャリアアップや待遇改善の機会でもある。就職後も専門性を高め続けたり、最新の知識・技術を学ぶなど、自分自身で市場価値を高める努力が求められる。

リクルートワークス研究所「ワーキングパズン調査2014」 ※グラフは退職経験者に限ったもの

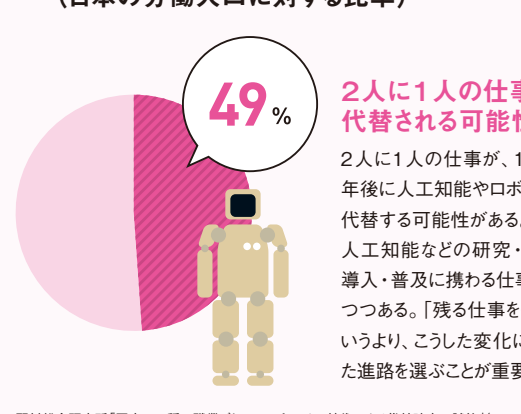
● 大卒求人倍率の推移



リクルートワークス研究所「第33回ワークス大卒求人倍率調査(2017年3月)」

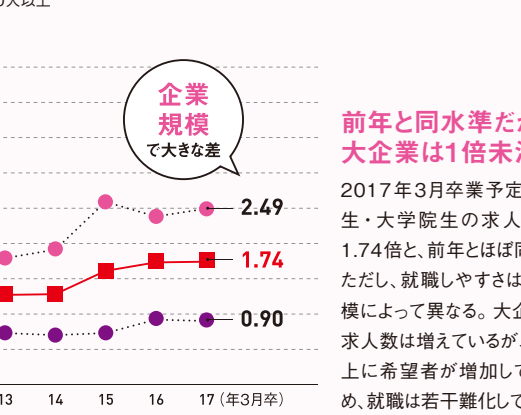
注目!

● 人工知能等に代替される仕事の予測



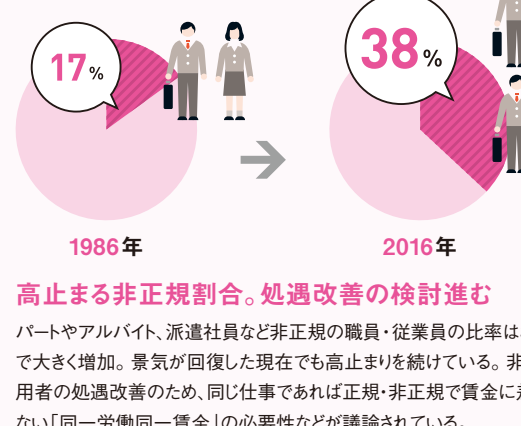
野村総合研究所「国内601種の職業ごとのコンピュータ技術による代替率の試算」(2015年) ※野村総合研究所とオックスフォード大学オーストン教授、フレイ博士の共同研究。本試算はあくまでもコンピュータによる技術的代替可能性の試算であり、社会環境要因の影響は考慮していない。

● 非正規雇用の割合



1986年:総務省「労働力調査(特別調査)」(2月調査) / 2016年:同「労働力調査(基本集計)」平成28年(2016年)平均(速報)結果

● 奨学金の返還例



日本学生支援機構「平成26年度学生生活調査結果」(専門学校)平均(年間別)より抜粋 ※大規模学部・下部、アパート、その他の区分